

島根県のがん登録2017年(平成29年)集計

すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指すために

みるにや

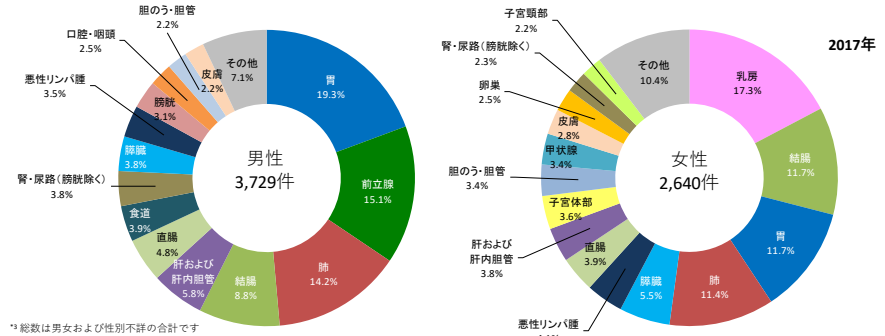


がん対策を推進していくためには、がんの発生動向を的確に把握することが大切です。そのため、島根県では全国がん登録により収集された島根県のがん登録データを分析し、県民をはじめがん医療に関係する皆様に情報提供することで、皆様と一体となってがん対策に積極的に取り組んでまいります。

1、島根県でがんにかかった人の数

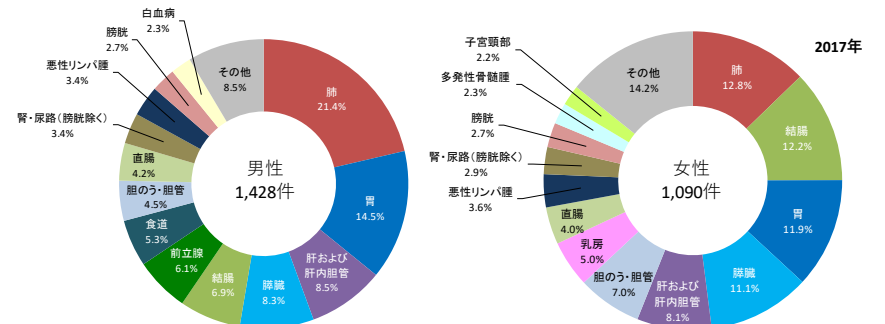
2017年の島根県における上皮内がん*1を除く罹患数は、男性3,729件、女性2,640件、総数*3 6,369件でした。

部位別にみると、男性では胃がんがもっとも多いがんであり、次いで前立腺がん、肺がん、結腸がん、肝および肝内胆管がんが続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは4番目に多いです。女性では乳がんが最も多く、次いで、結腸がん、胃がん、肺がん、膵臓がんが続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは2番目に多いです。



2、島根県でがんによりなくなった人の数

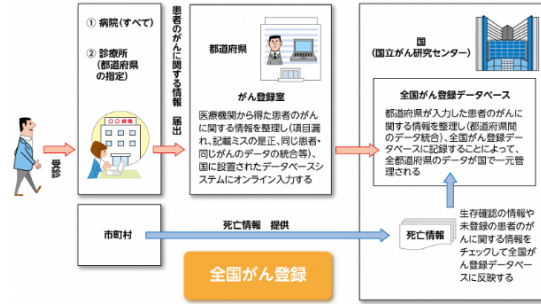
2017年の島根県でがんを原因とした死亡数は2,518人(男性1,428人、女性1,090人)でした。男性では肺がんによる死亡が最も多く、次に胃がん、肝および肝内胆管がん、膵臓がん、結腸がんが続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは3位です。女性では肺がんによる死亡が最も多く、次に結腸がん、胃がん、膵臓がん、肝および肝内胆管がん、と続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは1位です。罹患の比較的多い女性の乳がんの死亡数はそれほど多くないことがわかります。



6、がん登録と個人情報の保護

がん登録は病院や指定診療所から患者さんの診断や治療の情報を収集することで成り立っています。そのため、患者さん個人の特定につながる情報の安全管理に配慮して、情報の収集、保管、活用を行っています。

がん登録等の推進に関する法律では、全国がん登録の業務に従事する者の秘密漏示等の罰則規定が定められており、島根県でも、全国がん登録における個人情報保護のための安全管理措置マニュアルに従って全国がん登録島根県がん情報管理要領を定めて、適正に管理を行っています。



7、がん登録データの活用

本リーフレットは、全国がん登録の島根県版がん登録報告書の抜粋ですので、報告書全体については下記の島根県ホームページからご覧いただけます。報告書に掲載されていないデータについては、がん登録等の推進に関する法律に基づき活用していただくため、全国がん登録における島根県がん情報等の提供に関する事務処理要領を定めています。市町村、病院等、ならびにがんに係る調査研究を行う方は島根県ホームページをご確認のうえ、島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室までお問合せください。



島根県のがん登録



<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/kenko/gan/gantouroku-data/gantouroku.html?site=sp>

- *1 上皮内 : 上皮内にとどまって浸潤していない
- 限局 : がんが原発臓器に限局している
- リンパ節転移 : 領域リンパ節への転移を伴うが、隣接組織、臓器への浸潤がない
- 隣接臓器浸潤 : 隣接組織、臓器に直接浸潤しているが、遠隔転移がない
- 遠隔転移 : 遠隔転移がある
- *2 領域とは、領域リンパ節転移と隣接臓器浸潤を含む

2021(令和3)年2月発行
編集 島根県がん診療ネットワーク協議会
発行 島根県健康福祉部健康推進課
〒690-8501島根県松江市殿町1番地
tel (0852) 22-6701 fax (0852) -22-6328

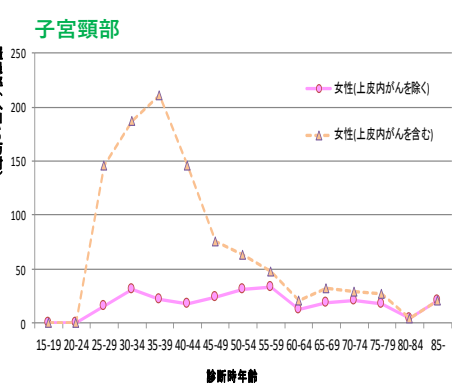
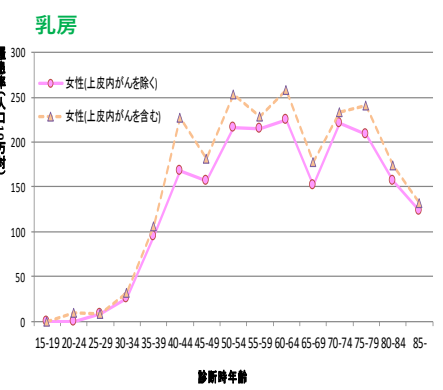
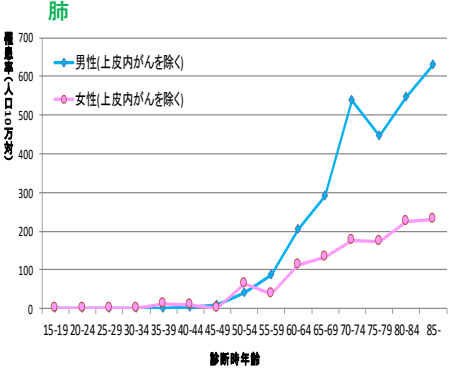
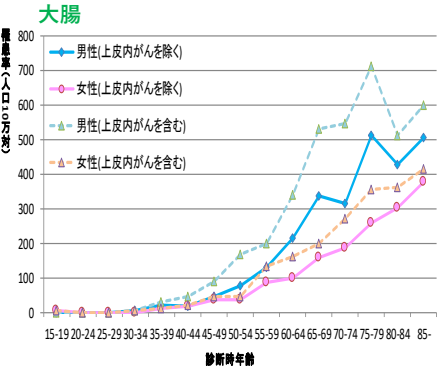
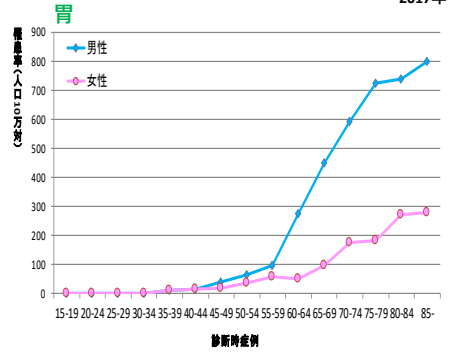
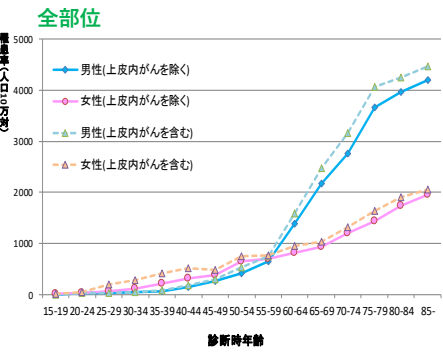


健康長寿しまね
 Mascotキャラクター
 「まめなくん」

3、がんにかかりやすい年齢

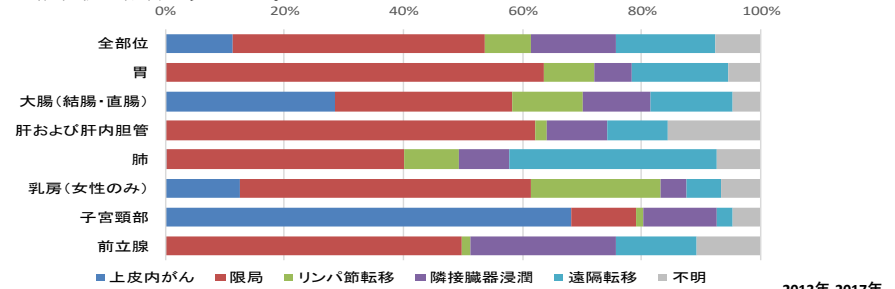
全部位について鳥根県の性別年齢階級別にがん罹患率をみると、25歳から54歳では女性の罹患率が高いです。これらは、乳がん、子宮頸部がんが影響しています。55歳以上の年齢では男性の罹患率が女性より高くなっています。

胃がん、大腸がん、肺がん、では年齢が高くなるにつれて罹患率が高くなっています。乳がん、子宮頸部がんでは年齢とともに一貫して罹患率が高くなるという傾向は見られません。乳がんの上皮内がん¹を含めたがん罹患率は30歳代から罹患率が高くなります。子宮頸部がんの上皮内がん¹を含めたがん罹患率は20歳代から罹患率が高くなり、35-39歳が最も多いです。



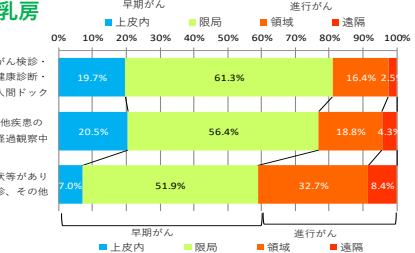
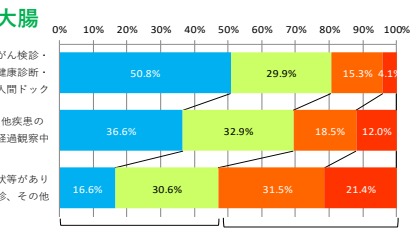
4、がんの病巣のひろがり

診断時のがん病巣のひろがりを見ると、部位によって進行の程度が異なることがわかります。主ながんで診断時に上皮内、限局にとどまっている割合をみると、胃がん、大腸がん、肝および肝内胆管がん、乳がんは6割程度、子宮頸部がんは8割弱です。肺がんは、診断時に遠隔転移の割合が多いです。



5、がんの発見経緯と病巣のひろがり

がんの発見経緯とがん病巣のひろがりを見ると、どの部位でもがん健診・健康診断・人間ドックで発見された場合は、症状等があって受診された場合より早期にみつかることがわかります。がんの初期には症状が出ないことが多いので、がん検診を積極的に受診しましょう。



6、病巣のひろがり5年生存率(全部位)

病巣のひろがり別に5年生存率をみると、限局89.8%、領域56.3%、遠隔15.5%です。早期で発見されるほど生存率は高くなります。

